

多自然川づくり取り組み事例

タイトル : ミツ又沼ビオトープにおける多様な主体と連携した保全管理活動の紹介	
水系/河川名 : 荒川水系荒川	河川分類 : 大河川
河川の流域面積 : 3940km ²	整備計画流量 : 6200m ³ /s(W=1/100) セグメント : 2-2
事業 : 環境整備	事業開始年度 平成13年度
目標設定 : 定量的	段階 : A(フィードバック時)
課題・目的(主な) : ワンド・たまり、池沼の保全・再生・創出	
工法(主な) :	
配慮事項(主な) : 人材育成	

背景・課題、目標設定

<背景>

”ミツ又”と呼ばれるこの地は、かつては荒川と入間川が合流し、一つの大きな流れとなる場所であった。その後、河川改修が進み、昔の荒川の流が沼や湿地として残り、希少な動物や生きもののすみかとなっている。

しかし、時代とともに、外来植物の侵入やゴミが捨てられる等により”ミツ又”の自然は劣化していった。この状況を嘆いた市民は、荒川上流河川事務所に、かつての豊かな自然を取り戻して欲しいと、自分たちで作ったビオトープ計画を手を持って相談し、これを受けて荒川上流河川事務所は、全国で初めて、用地買収を伴うビオトープ整備(環境整備事業)を実施した。

ミツ又沼ビオトープは、オープン当時から市民サポーターと協働でパートナーシップ型の維持管理を実施しているが、人手不足が課題となっている。

<目標>

かつての荒川で見られた荒川の原風景の創出

取り組み内容・対策例

分類	主な連携主体	連携主体側のねらい	保全管理として連携した努力	年度												
				H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27					
企業	(株)武蔵野銀行 新入行員	新人研修	外来植物の除去	102人×1.5hr(4月)	天候不順につき開演短縮											
	(株)東電 社員貢献	社会貢献	ゴミ拾い	18人×3hr(12月)												
団体	いっかがい家の会(彩の国いっかがい大学OB会)	社会貢献	竹林の管理活動	12人×2hr(5月) 79人×2hr(5月)	地元環境団体が対応	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	教育ルネサンス	野外活動	外来植物の除去	16人×1.5hr(9月)	地元環境団体が対応	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	日本ビオトープ管理士会 滋土木学会CD取得研修	現地実習	外来植物の除去	24人×2hr(2月)												●
茶ノイスカウト上尾 団員9名	野外活動	外来植物の除去	35人×2hr(3月)	【新規】												●
学校	川島町立 出丸小学校 上野南	総合的学習	ハンノキプロジェクトと荒川の草花の観察	29人×2hr(12月)		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	上野市立 太平中学校 上野南	クラブ活動	ハンノキプロジェクトと荒川の草花の観察	6人×2hr(7月) 8人×2.5hr(12月)		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	埼玉県立 いずみみ高校 上野南	「生態学基礎」 現地実習	外来植物の生育実験	40人×1.5hr(6月) 40人×1.8hr(10月) 40人×1.3hr(1月)												
	浦和高等学校	野外活動	外来植物の除去	75人×4hr(5月)	地元環境団体が対応	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	大正大学 環境コミュニケーションコース 1学年	現地実習	外来植物の除去	34人×2hr(5月)												●
	学習院大学 教育学部 1学年	「環境教育概論」現地実習	ゴミ拾い	30人×5hr(12月) 17人×4.5hr(1月)												●
	平成27年度 連携により獲得した作業員×時間*			1,526人・hr												

住民参加を促す手段として、過年度では、ミドリシジミ観察会等を開催したが、持続的な市民参加には発展しなかったことから、近年では、企業や学校を対象(一本釣り)として、参加者を増やしており、現在では多様な主体がミツ又沼ビオトープの自然を良くするために活動している。



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<活動の成果>

ここ数年、ミツ又沼ビオトープの自然を良くするための活動に参加して下さる学校・団体が増えています。

- ①市民サポーターの維持管理作業
- ②小中学校、高校、大学等の環境教育授業
- ③企業のボランティア活動

<アピールポイント>

- ①荒川の草花を育てようプロジェクトの始動

外来植物は、抜いてもまた新たな外来種が容易に侵入するため、外来植物を抜いた後に、各主体が種から育てた「荒川に本来生育している在来植物」を植え戻す取り組みを始めた。

これにより、在来植物がかたちづくる地域色豊かな景観の形成にも資するものとする。



20年前のミツ又



現在のミツ又



備考

問い合わせ先

電話番号